

夏まきニンジンの苗立ちをよくする方法

7月から8月にかけて種をまくニンジンは、生育期の気温や降水量が品質や収量に影響します。特に種まきから2週間くらいの期間の高温と乾燥は、発芽率が低下したり、発芽しても芽が枯れたりする原因となります。

そこで、ニンジンの種まきポイントと、苗立ちを改善する方法を紹介します。

■種まきのポイント

- ・土はできるだけ細かく耕して土壌保水力を高める。
- ・まき床は平らにならし、種まきは降雨後か土を十分に湿らせてから行う。
- ・まき溝は深さ1cm程度（土が乾いている場合は1.5～2cm）。
- ・覆土は薄く（5mm程度）し、種子と土が密着するように上から鎮圧する。
- ・表土の蒸散を抑えるため、わらや不織布などをかけ、水分が少ないときはかん水する。

■苗立ちを改善する方法

ニンジンの発芽適温は15～25℃、生育適温は18～21℃であり、夏まきでは生育前半がやや暑すぎる環境です。それを改善する方法として、種まき後2週間程度の期間に、最高気温が高くなっても、遮光ネットによりトンネル被覆することで苗立率の改善に有効です。（県総合農業技術センターH30成果情報）

【使用する資材】

- ・トンネル支柱またはダンポール
- ・遮光ネット（遮光率70%前後、黒色）
- ・ネットを固定する資材（パッカー、洗濯ばさみ、マイカ線など）

【設置する方法】

- ・種まき後に遮光ネットをトンネル状に設置し、種まき後2週間程度ではずす。
- ・ネットの裾が地面ギリギリ又は少し隙間が開く程度に設置（地中に埋めない）し、風通しを良くする。



峡南農務事務所 農業農村支援課
（峡南地域普及センター）
生産振興担当

055-240-4131